



全労連青年部ニュース

# YOUTH TOPIC

つながる・たたかう・支えあう青年部を



ホームページ <http://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/>

ブログ <http://blogs.yahoo.co.jp/zenrourenpower>

# ユニオンニュースアカデミー2015

～戦後70年の今何をすべきなのか、平和とは何か、過去を見つめ考える～

2015年5月30～31日の両日でユニオンアカデミー2015(以降ユニアカ2015と表記)が開催されます。

今年は戦後70年を迎え、5月にNYで開催されるNPT再検討会議では核軍縮・不拡散についての話し合いが行われ、日本からも全国から1000人規模の代表団をNYに送り込み、5月3日には横浜市の臨港パークで集団的自衛権行使や平和憲法の改悪に反対する5.3憲法集会が予定されるなど世界や日本各地で平和にかかわる行動が一層盛り上がる年となっています。このような状況の中で「ユニアカ2015」は「戦後70年と平和」をテーマに、改めてNPT再検討会議で得たものを共有すると同時に長野県の歴史遺産等を訪れ実際に戦争を体験した方々に直接お話を伺い70年前の戦争を学習します。青年が戦後70年の今何をすべきなのか、平和とは何か、1人ひとりが過去を見つめ平和について考えていく企画となっています。

## 🌸 スケジュール(予定) 🌸

<5月30日> 9:30 東京駅集合

10:00 出発

13:00 上田駅

14:00 無言館見学

満蒙開拓団語り部の講演  
交流会



<5月31日> 8:30 長野第一ホテルロビー集合、松代大本営見学へ出発

12:00 松代大本営出発

12:30 長野駅経由

15:30 東京駅解散

※交通事情によって予定の時間が前後する場合があります。

## 🌸 参加費 🌸

全日程参加(宿泊付)

12,000円(夕食・朝食付)

全日程参加(宿泊無)

4,000円(夕食付)

日帰り

1,000円(企画参加のみ)

※3月10日発行の会議招集文に地図等の詳細がありますのでそちらもご参照ください。

※参加申し込み締め切りは2015年5月15日(金)となっています。参加ご希望の方は各所属組織からお申込みください。



## 語り継ぐ「満蒙開拓」の史実

30日に講演していただく満蒙開拓団の語り部の方とコーディネーターの方そして満蒙開拓団について少しだけ紹介します。



＜大石 文彦＞  
満蒙開拓団語り部

- ◆昭和16年  
長野市に生まれる
- ◆昭和20年4月  
宝興長野郷開拓団に参加し  
一家で「満州」へ渡る
- ◆昭和28年  
帰国
- ◆戦後は家業の紋章制作を継ぎ、  
紋章デザイナー、染織家として活躍。



＜寺沢 秀文＞  
コーディネーター

- ◆昭和28年12月7日生まれ  
松川町出身(現在住)。  
両親が元満蒙開拓団員。
- ◆日本大学文理学部卒業
- ◆飯田市内で不動産鑑定士事務所を  
経営しながら日中友好活動、  
残留孤児帰国支援活動、  
満蒙開拓平和記念館建設事業、  
満蒙開拓調査研究などに従事。

## 開拓団の真実、人間の盾



満蒙開拓団とは、1931年(昭和6年)に起きた満州事変から1945年(昭和20年)の日本の太平洋戦争敗戦時に至るまで、いわゆる旧「満州国」(中国東北部)・内モンゴル地区に、国策として送り込まれた入植者約27万人のことを言います。「20町歩(東京ドーム約4個分)の地主になれる」「満州は日本の生命線」などと日本全国から人を集め(特に長野県は日本で一番多い3万人を超える人々を送り込んでいます)旧「満州国」(中国東北部)・内モンゴル地区を開拓させました。しかし開拓と言いつつも現地の人々の農地を不当に奪いそこに移住させるなどしていたため、移住者の意思とは関係なく侵略の加担者の側面を持つものとなっていました。そして開拓の名目はあったが満蒙開拓団

の送目の主目的は日本からの人減らしと現地での対ソ連に向けた人間の盾といった軍事・国防が目的でした。

## ソ連軍の侵攻、逃避行へ

1945年8月9日のソ連軍の侵攻により満州は戦場となりますが、青壮年男性は根こそぎ動員により徴兵され、日本軍(関東軍)は南下戦略のもとすでに放棄地域とし満州の3分の2を放棄していたため、開拓団には若い男性も日本軍もおらず、老人や女子供を中心とした開拓団の人々は向けて荒野を逃げ惑うこととなります。逃避行は集団自決や飢え、うらみをもった現地の人々の襲撃、ソ連軍の攻撃などで多くの開拓団の人々が亡くなります(死者数は8万人とも言われています)。なんとか逃げ延びた開拓団の人々も「在外邦人は日本国籍を捨ててもいいから現地にとどまって生き延びよ」という当



三石忠典さんのスケッチ

時の日本政府の方針により、国策として進められた移民は国策によって棄民にされたため終戦の年には帰国できず避難民収容所などで越冬。そこでも多くの人々が亡くなりました。また過酷な環境の中で生きるために現地に残らざるをえなかった残留孤児や残留婦人も多く存在しました。そういった様々な苦難を乗り越えて生還した開拓団の人々は引き揚げ後も生活苦にあえぎ、多くが国内開拓地に入植したり南米への海外移民となった人々もいるなど、帰国できた人々をその後も多くの苦難が襲いました。

(ウィキペディア、満蒙開拓記念館資料参照)